

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2775004993
法人名	有限会社メディワールド
事業所名	グループホーム そよかぜ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 17 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2775004993
法人名	有限会社 メディワールド
事業所名	グループホーム そよかぜ
所在地	東大阪市大蓮北1-9-26 (電話)06-6736-2070

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月17日

## 【情報提供票より】(20年 9月 16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8.9 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	52,000 円	
敷 金	有( ) 円 無○			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4)利用者の概要(9月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 76.5 歳	最低	54 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	岡本内科医院・ひだまり整骨院・はやし歯科・ひだまり鍼灸マッサージ院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋コンクリート造り3階建ての2・3階部分に2ユニットを有するグループホームである。1階に系列のデイサービス「愛」があって、この設備の一部や広いホールを共有している。また近くに同じく系列の整骨院と鍼灸院があり、ホーム利用者の治療を支援している。近鉄弥刀駅から徒歩数分のところに在り、近所に大きな公園や商店街もあって生活環境のよいところである。玄関前にはベンチを置き、鉢植えの花を配置した空間があって近所の人たちにも解放している。開設後まだ3年の新しいホームであるが、利用者の思いを知り、利用者中心のより質の高いケアを目指して、職員全員気持ちを一つにして励んでいる。提携している内科医はいつでも往診してもらえるので医療面でも安心感がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は1、理念を簡潔な言葉で、見やすいところに掲示する。2、市主催の会議に一般職員にも出席機会を与える。3、他のグループホームとの交流。3、自ら意欲を出すことが困難な利用者にも意欲を引き出す努力を。4、利用者の役割分担を広げること。等である。すべてについて、取り組み改善が見られる。引き続き、改善、向上を目指して努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎日行っているミーティングにより職員の意見、提案などを盛り込んで、管理者と計画担当者が自己評価を行った。いくつかの課題を見出し改善に取り組んでいる。自己評価は全員参加での取り組みが求められる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催。包括支援センター、自治会役員、利用者と利用者家族代表、市議員等が出席し、利用者の日々の状況やホームの行事などの報告をし、出席者から他のグループホームの状況や福祉施設の取り組みなどを聞く。ホームとして参考になることは取り入れて質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族の来所時には意見、希望等を聞くようにしている。毎月の請求書に添えて、利用者の現況を報告している。普段から家族との連絡を密にすることで、家族からの希望などを引き出しやすくしようと考えている。意見や苦情があればすぐに対応するように心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所で自治会に入会し行事には参加している。今のところ利用者が直接参加することはないが、ボランティアの演芸などがホームへ慰問訪問される時近所の人たちを招待している。地域の人たちから、家に余った日用品などを持ってきてくれることもあり、地域には溶け込んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 1、人間中心のケアを心がけます 2、利用者の思いを知る努力をします 3、利用者の残存能力を守ります 4、バイステックの7原則に従います、を掲げ、利用者の意向を汲み取り、利用者本意のケアに努めている。	○	これまでの理念に「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」の意味を含めた項目を加え、地域密着型サービスとしての役割を盛り込み、かつ、なるべく平易な言葉に代えることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は全職員に理念を配布し毎朝のミーティングの際や、研修の度に理解を深めるよう話している。職員はそれぞれの項目の意味を理解しその実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し行事には参加している。年2・3回ホームでの行事に近隣の家庭に案内を配布し利用者と一緒に楽しんでもらっている。散歩や買い物の途中では地元の人たちと挨拶を交わしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は外部評価を実施する意義をよく理解し改善への取り組み意欲は高い。自己評価には職員の意見、希望などを、普段のミーティングを通じてくみ上げる努力をしているが、職員は自己評価を行っている意識は少ない。	○	自己評価には全職員の係わり合いを深くすることが望ましい。自己評価を行うことにより改善課題を見出し、具体的な改善への取り組みとされることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、ホームの方針、現状説明を行うとともに、他の事業所の取り組みなど、参考になる意見を聞き、当ホームのサービスの質向上につながる努力をしている。出席メンバーは利用者、家族代表のほか地域住民代表はじめ包括支援センター、市会議員等で充実したメンバー構成である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況報告を兼ねて月1回は市役所を訪問し担当者と面談し意見や参考になる話を聞かせてもらい、サービスの質向上に取り組んでいる。また、市担当者主催の地域別ケア会議にも必ず出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月末利用者の暮らしぶりや健康状態、医師の診察記録、金銭管理などの報告と併せてホームの予定や計画その他職員の異動なども報告している。また、変化があればすぐに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を随時開催し意見、希望を聞いている。また家族が来所された時には職員との面談時間を十分とってもらい、話し合っている。また外部相談窓口も設けている。いずれの場合でも不満、苦情があれば、即刻改善することになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの利用者の状態・状況に合わせた人員配置を行っているが、毎日の外出や行事を行うときは2・3階の区別なく、職員全員で馴染みの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みは積極的である。希望者には、各人が目指すものへの研修参加、資格取得へのバックアップ体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域ケア会議や介護福祉研修に参加し地域の福祉関係者との交流を図る努力をしている。同業者との交流はまだ出来ていない。	○	同業他社との交流を図りお互い切磋琢磨しサービスの質向上を図る取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決める前に事前に見学や体験入居等を経て本人・家族が、職員や他の利用者とも馴染みの関係が出来上がってから入居を決定することになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にある人間中心のケア、利用者の思いを知る努力を念頭に、支えあう日常であることに努めている。利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち教えられること、励まされることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日カンファレンスを行い、1人ひとりの思いや意向の把握に努めている、困難な場合でもできるだけ一緒にいる時間を長くすることで意向を把握している		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身の状態、家族の希望などアセスメントを丁寧に行い、担当者会議を持ち、家族や本人その他の関係者と話し合いの上、利用者ごとの介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画を見直している。その他、変化に応じて随時見直している。その都度家族に報告し了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じて併設のデイサービスに行ったり、設備を利用してのイベントや、外泊の送迎支援など、また、経営母体である鍼灸整骨院での治療に出かけることもある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意している。週1回の訪問診療が在り、適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	文書化はされていないが、終末期のケアの在り方は本人や家族とともに、職員も方針を共有している。ターミナルケアも家族らの要望であれば受ける用意がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に、利用者に対する言葉使いや接し方については、誇りやプライバシーを損なうことのないように、厳しく指導しており、徹底されている。記録等の個人情報は適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣や希望、ペースに沿えるよう配慮されている。およその時間はホームで設定されているが、それぞれ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの低下により、調理への参加はむつかしくなっているが、後片付けや、テーブルの清掃などの姿はある。職員も一緒に食事を摂りながら適切に介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日午前中を入浴時間としている。機械浴の必要な利用者は併設のデイサービスの浴室を使っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに合った楽しみごとや、役割、気晴らしの支援をしている。編み物、手芸、あるいは、洗濯物の取り入れ、しわ伸ばしや鉢植えの草花の水遣りなどをしてもらったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日1回は外気浴をするようにしている。本人の希望に沿って散歩や買い物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室をはじめ、玄関や殆どの鍵はかけないケアを行っている。一箇所の扉だけは、利用者の安全のために施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡方法なども整備されている。夜間の職員の少ない時の対策にはやや不安がある。	○	運営推進会議などを通じ地域住民の協力が得られる体制の早期構築を期待する

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスとカロリー計算されたメニューに基づきホーム内で調理し、一人ひとりの状況に応じて食事量や咀嚼に合わせて配膳している。水分の補給量とともに適切な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は和風に造られ畳に腰掛けるように設えられ落ち着いた雰囲気である。障子越しの感じもよい。が、その為やや見通しを悪くしている。廊下には行事の写真を張り、壁には花模様のある紙で大きな日付が入っていて季節の見当識に役立つ。トイレ、浴室は清潔でゆったりしている。脱衣室が少し手狭に感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者の好みや使い慣れたものを持ち込み居心地よくしている。エアコンに木で目隠しが施され冷たさを感じない。どの部屋も窓が広く、開けると明るい。煩わしい音も入らないよう工夫されている。		